

乳がんを考えましょう（金山病院乳腺外来） 広報げろ 2015.2

乳がんを考えましょう（金山病院乳腺外来）

乳がんは女性のがんの中で最も多く、しかも社会的にも家庭的にも最も重要な役目を果たしている時期にかかる病気です。金山病院は、家庭を守り地域を維持する上でもより身近な病院として乳がんの診療に力を入れています。

◎乳がん検診。乳がん検診は特に症状のないときに受けるものです。少しでも異常を感じた時には検診を受けることなく、保険証をもって金山病院乳腺外来を受診ください。これが早期発見につながります。検診では本来マンモグラフィーとエコー（超音波）検査を行うべきですが費用の関係で年齢によってどちらかを選ぶことになっています。

◎エコー検査。乳がんの多く発生する40代後半から50代ではマンモグラフィーは映しだされる影が多く重なっているためにしこりを区別しにくいのに対し、エコー検査は乳房の断面を観察するのでしこりを発見しやすく、金山病院では最も力を入れています。

◎マンモグラフィー。乳がんの一部では微小な砂粒状の石灰化が映しだされます。この石灰化だけによって発見される乳がんは頻度は少ないのですがマンモグラフィーが威力を発揮し、エコー検査では診断が困難です。

◎乳がんの確定診断。精検で乳がんの確定診断が必要になると金山病院では、針生検、切開生検などを行います。切開生検や一部の針生検では局所麻酔をしますが、入院の必要はなく、車を運転して帰れます。家事仕事も普通にできて、通院は翌日一回のみです。抜糸の必要もありません。切開生検の欠点は傷跡が残ることです。

◎乳がんの手術。がんの手術では乳房の一部または全部を切除します。金山病院では乳がんを早期発見し本人の希望により乳房を温存する手術に力を入れています。温存しても左右差が少ないようにするためにも早期発見が大切です。乳房を切除してついでに再建する手術も行われていますがこれも左右差が無いようにするには何回も修正手術が必要になります。金山病院では乳房再建は専門の形成外科を紹介しています。

◎放射線療法。温存した乳房には再発予防のために、週5日、5週間、（一回は数分間）放射線を照射します。装置のある美濃太田か高山に通院が必要です。放射線による副作用は一時的な日焼け様の皮膚症状程度です。これによって乳がん再発は3%以下に抑えられます。再発すれば乳房切除が必要となります。

◎抗がん剤療法。金山病院では抗がん剤療法に力を入れています。乳がんはその性質によっては術前、術後の抗がん剤治療が必要となります。主に3週間に一回静脈注射などを行います。これを一回から四回、場合によってはさらに一年間特殊な抗がん剤治療を継続します。抗がん剤には様々な副作用があるので初回は1～2日入院して経過を見ます。長期の治療になるので近くの病院でできることが大切と考えています。

◎経過観察。乳がんは再発すればいつかはその癌によって命を失います。再発は他のがんと違って10年後、20年後にも起こります。一生にわたって定期的な検査が必要です。再発が見つかれば治療によってがんと共存しながらQOLを維持することになります。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦